

【令和3年度】逗子市スポーツ推進計画 評価調書

| | |
|----------------|---|
| 事業名 | 逗子市スポーツの祭典の開催 |
| スポーツ推進計画での位置づけ | 重点的に取り組む4つの事業の(1) |
| 事業のねらい | 全ての市民にスポーツ機会を提供し、継続的にスポーツを実施するためのきっかけづくり。 |

| 主な事業 | 2015年度～2016年度 (平成27年度～28年度) | 2017年度～2018年度 (平成29年度～30年度) | 2019年度～2022年度 (平成31年度～34年度) |
|----------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| ①逗子市スポーツの祭典の開催 | 実施 | | |
| ②高齢者向けのスポーツ種目の検討 | 検討 | 実施 | 見直しと実施 |
| ③障がい者向けのスポーツ種目の検討 | 検討 | 実施 | 見直しと実施 |
| ④東京オリンピック・パラリンピック開催記念イベントの検討及び開催 | 検討 | | 実施 |

| 事業予算 | 2年度 | 事業決算 | 3年度 |
|------|----------|------|----------|
| | 270,000円 | | 220,000円 |

| 令和3年度の実施結果・特筆すべき実績 | |
|----------------------------------|--|
| ①逗子市スポーツの祭典の開催 | <p>令和3年10月17日(日)に市民まつりと共同で開催予定だったが、新型コロナウイルス感染状況悪化のため延期し12月12日(日)に開催した。</p> <p>38企画38種目を実施し、参加者数(動画再生回数含む)は延べ2,893人で前年度比1,119人増であった。</p> <p>第一運動公園で実施したニュースポーツ「モルック」「フレスコボール」は経験がなくても楽しめるスポーツで小さい子どもから高齢者まで延べ509人が参加した。「弓道」では105人が参加した。伝統競技を体験できる数少ない機会に行列が続く盛況であった。</p> |
| ②高齢者向けのスポーツ種目の検討 | <p>「75歳からの健康体操」「シニアピラティス」等高齢者向け種目を5種目実施し、延べ144名が参加した。高齢者向け企画ではないが、「ボッチャ」「モルック」「フレスコボール」などのニュースポーツについても多くの高齢者の参加があった。</p> |
| ③障がい者向けのスポーツ種目の検討 | <p>メインアリーナで実施した「ボッチャ」は、東京2020パラリンピックで使用したボッチャシートを使い競技をした。</p> <p>その他バドミントンで車いすの利用者の参加があるなど、障がいの有無を問わずに誰もが参加できるイベントとなった。</p> |
| ④東京オリンピック・パラリンピック開催記念イベントの検討及び開催 | <p>東京2020オリンピック聖火リレートーチの展示や東京2020パラリンピックで使用したボッチャシートを使って競技を体験できる等、東京2020オリンピック・パラリンピックのレガシーとした企画を取り入れ、日頃スポーツをする習慣のない方もわかりやすく、参加しやすいイベントであった。</p> |

| | |
|--|--|
| 令和3年度の進捗状況（自己評価）と評価を踏まえての取組み | |
| 事業を行ったことにより想定される効果 | |
| <p>【短期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日頃スポーツをしない方や子ども、高齢者、障がいのある人等が興味を持って参加しやすいメニューづくりを心掛けたことで、「スポーツ機会の提供」及び「スポーツを実施するきっかけづくり」に結びつく。 ・コロナ禍において、イベント開催や会場の利用等の制限がある中でも、感染対策を実施することで安心してスポーツをする機会を提供することができ、with コロナを見据えた日常的なスポーツ活動につなげることができる。 ・年齢や性別、障がいの有無に関わらずスポーツが楽しめる「ボッチャ」「モルック」等ニュースポーツを実施したことで、体験する面白さを伝えるとともに、障がいの有無を問わず一緒に楽しめる状況を作り、交流を深めることが期待できる。 <p>【中・長期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツの祭典をきっかけに一層スポーツに親しむことで、健康な心とからだをつくることに寄与する。 ・子どもから高齢者、障がいのある人や日頃スポーツに触れる機会の少ない人も含めて、市民がスポーツに取り組むきっかけとなり、市民の健康体力づくりにつながる。 ・スポーツを始めたい、再開したいという人が、スポーツを始めることで、地域のスポーツ環境の活性化につながる。 ・これらによる効果が、相乗効果となりスポーツを通じた活力に満ちたまちづくりを推進する。 ・社会情勢の変化等があってもスポーツをする環境を継続して提供できる。 | |

| | |
|--|--|
| 所管課による自己評価 | A：事業完了、又は予定を前倒して進捗。C：予定より遅れている。 B：予定どおり進捗。D：事業見直し、又は事業中止。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・「ボッチャ」「モルック」等ニュースポーツを実施し、年齢や性別、障がいの有無に関わらずスポーツが楽しめる機会を作った。 ・参加者アンケートでは87.4%が「スポーツを始める（再開する）きっかけになる」と回答しており、きっかけづくりの場となっている。（R2年度71.4%） ・東京2020オリンピック聖火リレートーチの展示、東京2020パラリンピックで使用したボッチャシートの活用や東京2020オリンピック・パラリンピック競技の体験など、東京2020のレガシーとしたイベントを行うことができた。 | |

| |
|--|
| 審議会での意見 |
| <p>●評価はB：予定どおり進捗。が妥当と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・障がいの有無、年齢・性別、スポーツ経験の有無などにかかわらず、気軽に参加できる種目の設定等の工夫があり、前年より参加者数も増加もみられ、スポーツの祭典が市民のスポーツを始める、継続するきっかけづくりになったと考える。ニュースポーツの採用や、種目を多く設定する等、取り組みの工夫を検討し、今までスポーツをしていない人たちにも興味をもってもらえるようなアイデアを出していただきたい。 ・オンラインを活用した運動企画は、スポーツをする習慣のない人、会場に来ることが難しい人の運動の機会の提供として有効だと考える。体を動かす楽しさを知ってもらう、少しずつ動けるようになることを楽しむようになる等、対象を広げていくことを期待する。また、スポーツの祭典で経験したことが、その場だけにとどまらず、継続していけるような施策を望む。 ・コロナの影響が収まらず、実施時期の状況の予測が難しい中で、早々に中止を決める自治体も多いが、実施までたどり着かせた主催者の努力は評価できる。実施をめざすことで感染対策の在り方など良い事例となっている。安易に中止、延期とせず、実施の可否についての慎重な検討は今後も継続されたい。 |

| | |
|----------------|--|
| 事業名 | スポーツと健康づくりに関する情報の充実と提供 |
| スポーツ推進計画での位置づけ | 重点的に取り組む4つの事業の(2) |
| 事業のねらい | 地域のスポーツ指導者などを活用し、初めてスポーツをする方や、スポーツについてもっと知りたい・楽しみたい方の欲求を充実させ、新たな交流を創り出す。 |

| 主な事業 | 2015年度～2016年度 (平成27年度～28年度) | 2017年度～2018年度 (平成29年度～30年度) | 2019年度～2022年度 (平成31年度～34年度) |
|--------------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| ①スポーツ指導者や子ども向けスポーツチームのデータベース化と活用 | データベース化 | データベースを活用した情報の提供と登録者の充実 | |
| ②スポーツ・健康づくりに関する専門家の発掘と活用 | 内容検討 | 学習会の実施及び見直し | |
| ③初めてスポーツに取り組む方や健康づくりを目指す方への情報提供・相談対応 | 内容検討 | 情報提供や相談への対応の実施 | |

| 令和3年度の実施結果・特筆すべき実績 | |
|--------------------------------------|--|
| ①スポーツ指導者や子ども向けスポーツチームのデータベース化と活用 | <p>市ホームページ上で「小学生のためのスポーツ団体一覧」を公開し、同じ情報を市民活動・生涯学習情報サイト「ナニスル」に掲載している。また、市立小学校全児童に配付した。</p> <p>市ホームページ上で市のスポーツ情報を集約したページを新設した。</p> |
| ②スポーツ・健康づくりに関する専門家の発掘と活用 | <p>逗子市スポーツ協会による講習会として指導者・審判員を対象とした審判講習会を行い、ソフトボール30名、テニス25名の参加があったが、バレーボールは新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。</p> <p>レクリエーション指導者講習会は、指導者、審判員、愛好者を対象に全3回延べ62人が参加した。</p> <p>国保健康課管理栄養士・保健師と逗子市スポーツ協会健康運動指導士の連携事業の「Zushi パーソナルトレーニングプログラム」及びスポーツ少年団指導者研修会は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となった。</p> |
| ③初めてスポーツに取り組む方や健康づくりを目指す方への情報提供・相談対応 | <p>市立体育館トレーニングルーム内に設置されている未病センターにおいて、筋肉量、体脂肪量、BMI、体脂肪率を簡単に計測できる機器を利用する等、健康づくりに取り組む方へのサポートを行った。</p> <p>未病センターの利用人数は、延べ16,495人(令和2年度8,353人)、1日当たりの利用人数は58.9人(令和2年度48.3人)であった。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により市立体育館で人数制限を行っている。</p> <p>市立体育館指定管理者の健康運動指導士資格を有する職員による「健康・体力相談」を全32回延べ78人に実施した。(令和2年度 全8回延べ22人)</p> <p>逗子市スポーツ協会のスポーツ推進事業として、健常者と障がい者が垣根無くスポーツやダンス等を楽しめる「みんなでダンス&ソング&スポーツ&ボッチャ」を全22回行い延べ335人が参加した。</p> |

| 令和3年度の進捗状況（自己評価）と評価を踏まえての取組み | |
|--|--|
| 事業を行ったことにより想定される効果 | |
| <p>【短期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「小学生のためのスポーツ団体一覧」は、情報を更新することで正確な情報が提供できている。 ・「健康・体力相談」は、新型コロナウイルス感染症の影響があるが、市役所未病センターと連携しスポーツによる健康づくりをサポートする場としての周知と利用が進む。 ・パラリンピック正式種目である「ボッチャ」の普及活動は、東京 2020 パラリンピック競技大会で使用したボッチャシートを使用し体験することで、パラスポーツへの理解を深める。 | |
| <p>【中・長期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ情報の継続的な提供は、市民がスポーツをはじめるときかけになるとともに、スポーツ団体への加入等により、スポーツを通じた市民同士の交流づくりにつながる。 ・「健康・体力相談」の実施は、初めてスポーツに取り組もうとする人に対して、最初の一步を踏み出しやすくするだけでなく、健康な生活習慣の重要性への気づきや理解を深めることにつながる。 ・パラリンピックの正式種目の競技を実際にやってみることは、競技スポーツやパラスポーツに対する関心や興味を高めることにつながる。 ・障がいのある人でも健常者とともに行えるスポーツ教室があることでスポーツをする場が広がり健康づくりにつなげることができる。 ・指導者養成教室を継続的に実施することで、適切かつ安全なスポーツへの取組み方が市民に普及する。 | |

| | |
|---|--|
| 所管課による自己評価 | A：事業完了、又は予定を前倒して進捗。C：予定より遅れている。 B：予定どおり進捗。D：事業見直し、又は事業中止。 |
| <ul style="list-style-type: none"> ・平成27年度から「小学生のためのスポーツ団体一覧」の配付による情報提供を開始し、毎年情報の更新を行っている。 ・市ホームページにて市のスポーツ情報を集約したページを新設し、活用しやすい環境を作った。今後も内容の充実や提供の仕方を工夫する等が必要である。 ・市役所未病センターと市立体育館未病センターの保健師と健康運動指導士が、役割分担をしたうえで事業を実施し連携している。ただし、健康運動指導士については現在も有資格者が1名なので、増員等について指定管理者と引き続き協議していく必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症の影響により「健康・体力相談」の実施回数が減少していたが、影響の少なかった令和元年の水準まで回復しており、健康づくりをサポートする場として利用が進んでいる。 | |

| | |
|---|--|
| 審議会での意見 | |
| <p>●評価はB：予定どおり進捗。が適切と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スポーツ参加の入り口として健康相談や体力相談は効果が高いと考える。参加者の増加は、コロナによる不安も含めて、健康維持に向けて前向きな数字と受け止められ、「成人の週1回以上のスポーツ実施率」が前年度の実施率を保っている結果と共に評価できる。「健康・体力相談」の相談内容に応じて、例えば、県立スポーツセンターの未病改善スポーツドック（体力・運動能力の測定と測定結果を基にした運動プログラムの処方や成果の確認等）を紹介するなど、他機関との連携をすすめ、さらに市民が地元で健康な生活習慣の日常化に取り組めるような施策を望むと共に、今後も相談機会の更なる増加を期待する。 ・市ホームページ上で新設した市内のスポーツ情報を集約したページでは、逗子市にゆかりのあるアスリートが掲載されているなど魅力を感じる内容となった。今後は、市ホームページのトップページからスポーツ情報ページへのアクセスをしやすくするバナーの作成や、市内で開催されたスポーツ大会の結果や参加者の声、市内の指導者やボランティアに関する情報を掲載するなどコンテンツの充実に加え、市教育委員会と連携し市内小学校のホームページにもリンクを設け、市の SNS を活用した広報を検討し認知度を高める等の取組をされたい。 | |

| | |
|----------------|---|
| 事業名 | 小・中学校を拠点とした子どもの健康・体力づくり |
| スポーツ推進計画での位置づけ | 重点的に取り組む4つの事業の(3) |
| 事業のねらい | 子どもの運動不足解消や体力・運動能力の低下の改善のための、情報提供及び環境づくり。 |

| 主な事業 | 2015年度～2016年度 (平成27年度～28年度) | 2017年度～2018年度 (平成29年度～30年度) | 2019年度～2022年度 (平成31年度～34年度) |
|---|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| ①体育授業や運動部活動への指導者の派遣 | 派遣先との調整 | 指導者の派遣 | |
| ②ふれあいスクール、放課後児童クラブ等と連携した子どものスポーツ実施機会の提供 | 派遣先との調整 | 指導者の派遣 | |
| ③子どものスポーツや健康づくりに関する情報提供・相談対応 | 内容検討 | 情報提供や相談への対応の実施 | |

| 令和3年度の実施結果・特筆すべき実績 | |
|---|--|
| ①体育授業や運動部活動への指導者の派遣 | 市立中学校1校において、学校支援地域本部が派遣する形で、PTA・OB/OG・顧問の紹介等による地域講師が部活動の指導を行った。派遣先の運動部系部活動は2部4人(令和2年度は2校合計で3部5人)の外部指導員が派遣された(逗子中:バドミントン部3人、バスケットボール部1人)。 |
| ②ふれあいスクール、放課後児童クラブ等と連携した子どものスポーツ実施機会の提供 | 体験学習施設スマイルでのスポーツ団体と連携した企画は、昨年に続き新型コロナウイルスの影響により中止となった。 |
| ③子どものスポーツや健康づくりに関する情報提供・相談対応 | 「小学生のためのスポーツ団体一覧」を市立小学校の全児童に配付するとともに、市ホームページ、ポータルサイト「ナニスル」等で公開し、周知に努めた。さらに、市ホームページ上で県「スポーツ指導者情報(プラネットかながわ)」のリンクを掲載している。 市ホームページで新設したスポーツ情報を集約したページで、逗子市出身のプロスポーツ選手を紹介し、スポーツを身近に感じられるようにした。 また、逗子市スポーツ協会の自主事業であるジュニアスポーツ教室の情報を広報「ずし」と「ZASA Sports News」に掲載している。 |

| 令和3年度の進捗状況（自己評価）と評価を踏まえての取組み | |
|--|--|
| 事業を行ったことにより想定される効果 | |
| <p>【短期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・OB/OG 中心の外部指導者を活用することで、学校でのスポーツ活動への理解が高く、スムーズな指導を実施することができる。また、コロナ禍においても、地域内の指導者を活用することで移動の制限等のリスクが少なく継続的な指導ができる。 ・学校側の目的である障がいのある児童がスポーツを楽しむ「場づくり」のきっかけを作る。また、運動が不得意な子どもでも楽しめるポッチャを通じて、運動する子どもとしない子どもの二極化解消のきっかけにもなる協力をすることができる。 ・毎年「小学生のためのスポーツ団体一覧」の情報を更新することで、スポーツを始めたい子どもに最新の情報提供ができる。 <p>【中・長期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動部活動への地域の外部指導者の派遣は、地域と子どもがつながるきっかけとなるだけでなく、より専門性の高いスポーツに触れる経験や効果的な指導を受けることで、運動能力の向上や競技スポーツへの関心を高めることも期待できる。 ・教職員へのポッチャの指導を継続していることは、地域全体での普及につながることを期待できる。 ・子どもが市内のスポーツ団体での活動を行うようになると、学校以外のスポーツを通じた地域内交流を経験することができる。 | |

| | |
|--|---|
| 所管課による自己評価 | <p>A：事業完了、又は予定を前倒して進捗。 C：予定より遅れている。 B：予定どおり進捗。 D：事業見直し、又は事業中止。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍のため指導者の派遣や「健康・体力相談」の件数は、コロナの影響が少ない令和元年の水準まで回復しており、継続して実施することができている。 ・「小学生のためのスポーツ団体一覧」の情報を随時更新し周知に努めている。 ・ジュニアスポーツ教室の情報を「広報ずし」や「ZASA Sports News」に掲載し周知に努めている。 ・県の「スポーツ指導者情報（プラネットかながわ）」のリンクを市ホームページに掲載することで、教室だけでなく指導者の情報も周知している。 | |

| 審議会での意見 | |
|--|--|
| <p>●評価はB：予定どおり進捗。が適切と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学生以上の運動部活動の地域への移行の方向性を踏まえると、指導者の派遣は、人数的にはまだ少ないように思われる。青少年スポーツにおける地域指導者の確保・育成等は喫緊の課題であると考えます。 ・「逗子市内小学生のためのスポーツ団体一覧」等の周知は、学校の部活動にとどまらないスポーツとの関わりを支える意味で極めて重要であり、一定の効果を上げている。今後は、小学生・中学生等のスポーツ実施状況等の実態把握のためのアンケート収集を行い、子どもたちの興味・関心に応えうるような種目の追加を検討されたい。 | |

| | |
|----------------|--|
| 事業名 | 「うみかぜクラブ」の活動内容の充実 |
| スポーツ推進計画での位置づけ | 重点的に取り組む4つの事業の(4) |
| 事業のねらい | 生涯にわたって、誰もが、気軽にスポーツを楽しみながら、健康維持・増進と地域の交流を深めることに寄与し、クラブの自立化・安定化を図る。 |

| 主な事業 | 2015年度～2016年度 (平成27年度～28年度) | 2017年度～2018年度 (平成29年度～30年度) | 2019年度～2022年度 (平成31年度～34年度) |
|----------------------------|--------------------------------|--------------------------------|--------------------------------|
| ①経営の自立化に向けた検討・調整 | 自立に向けたビジネスモデルの検討 | | 自立化 |
| ②広い世代を対象とするための取り組みと実施 | 取り組み方の検討 | 実施 | 見直しと実施 |
| ③高齢者や障がい者向けのスポーツ・体づくり教室の実施 | 取り組み方の検討 | 実施 | 見直しと実施 |
| ④スポーツメニューの見直し | 取り組み方の検討 | 実施 | 見直しと実施 |

※事業決算については、うみかぜクラブの自主財源により事業を実施していることから省略。

| 令和3年度の実施結果・特筆すべき実績 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------------------|---|-------|-------|-------|-------|-------|-----|-----|-----|--------|-----|-----|----|--------|-----|-----|-----|------|------|------|------|----|------|------|------|
| ①経営の自立化に向けた検討・調整 | <p>経営の自立化に向けて、平成30年度にメニュー等の大幅な見直しを図った上で自立化につなげている。</p> <p>うみかぜクラブのPR活動として広報「ずし」及び逗子市スポーツ協会がスポーツ振興くじ助成金の交付を受けて発行している「ZASA Sports News」に情報を掲載している。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ②広い世代を対象とするための取り組みと実施 | <p>人気のあるメニューに絞ることでメニュー数は15と前年度より少なくなったが、特に参加者の多いメニューの開催回数を増やし、延べ開催数は753回(令和2年度398回)、延べ参加者数は21,123人(令和2年度11,014人)となりコロナの影響が少ない令和元年度の水準まで回復した。(令和元年度761回、21,136人)</p> <p>【年代別の登録者数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>令和元年度</th> <th>令和2年度</th> <th>令和3年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0～19歳</td> <td>56人</td> <td>45人</td> <td>69人</td> </tr> <tr> <td>20～39歳</td> <td>12人</td> <td>11人</td> <td>8人</td> </tr> <tr> <td>40～59歳</td> <td>69人</td> <td>60人</td> <td>64人</td> </tr> <tr> <td>60歳～</td> <td>477人</td> <td>382人</td> <td>394人</td> </tr> <tr> <td>合計</td> <td>614人</td> <td>498人</td> <td>535人</td> </tr> </tbody> </table> | | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | 0～19歳 | 56人 | 45人 | 69人 | 20～39歳 | 12人 | 11人 | 8人 | 40～59歳 | 69人 | 60人 | 64人 | 60歳～ | 477人 | 382人 | 394人 | 合計 | 614人 | 498人 | 535人 |
| | 令和元年度 | 令和2年度 | 令和3年度 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 0～19歳 | 56人 | 45人 | 69人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 20～39歳 | 12人 | 11人 | 8人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 40～59歳 | 69人 | 60人 | 64人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 60歳～ | 477人 | 382人 | 394人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合計 | 614人 | 498人 | 535人 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ③高齢者や障がい者向けのスポーツ・体づくり教室の実施 | <p>前年度新型コロナウイルス感染症の影響で中止していた「高齢者体カアップ体操」の参加者976人等、「ZUMBAGOLD®」1,066人、「シニアヨガ」1,945人「健康体操」2,191人と高齢者対象のメニューには延べ6,178人(令和2年度2,777人)の参加があった。</p> <p>パラリンピックの正式種目である「ボッチャ」を取り入れ11人の参加があった。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | |
|---------------|--|
| ④スポーツメニューの見直し | <p>参加者の希望を考慮し開催メニューを絞り、人気のあるメニューは開催回数を増やすことで参加者の増加を図った。</p> <p>「吹き矢」は昨年引き続き新型コロナウイルス感染症の影響により中止した。</p> |
|---------------|--|

| 令和3年度の進捗状況（自己評価）と評価を踏まえての取組み | |
|--|--|
| 事業を行ったことにより想定される効果 | |
| <p>【短期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年会費、参加費、メニューの見直しを行った結果、自立に向けた経営組織体制の構築が進展する。 ・メニューの見直しにより、新たな会員の入会が促進する。 ・高齢者や障がいのある人がスポーツや体力づくりに向けた運動を取り組むきっかけづくりを提供できる。 | |
| <p>【中・長期的効果】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メニューの見直しにより、よりニーズに合ったメニューを導入することで登録者数の増加につながる。 ・パラリンピックの正式種目である「ボッチャ」を取り入れることでパラリンピックの競技への理解が深まりパラリンピックの競技の更なる普及につながる。 | |

| | |
|---|---|
| 所管課による自己評価 | <p>A：事業完了、又は予定を前倒して進捗。C：予定より遅れている。 B：予定どおり進捗。D：事業見直し、又は事業中止。</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染症の影響により中止としたメニューはあるが、人気のあるメニューの開催回数を増やし、延べ参加人数をコロナの影響が少ない令和元年度の水準まで回復することができた。 ・高齢者対象メニューの延べ参加者数は前年度のおよそ2倍の参加者があり、外出機会の減った高齢者へ運動の機会を提供できた。 | |

| 審議会での意見 | |
|--|--|
| <p>●評価はB：予定どおり進捗。が適切と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コロナが収束しない状況の中、スポーツに親しむことを念頭に、前年度に比べて会員登録数、延べ参加人数の回復が見られ、市民の健康維持・増進に寄与できたことは評価できる。 ・スポーツメニューの見直しについては、コロナの状況にも注視しながら、より多様なニーズに対応できる豊富なメニューが提供できることを望む。会員登録数と参加人数だけで評価するのではなく、各メニューの参加者に満足度をアンケートし満足度を評価に取り入れながら市民のニーズに応えうる新たな種目を追加することや、現行の種目のメニューの見直しや増加等の事業展開していくことが好ましいと考える。 ・広い世代を対象とするための取り組みと実施については、市内中学校と連携し、全国的に進められる部活動の地域移行に向けた取組の試験的運用等の取組についても検討されたい。 | |